

令和6年生駒市教育委員会第4回臨時会会議録

1 日 時 令和6年8月7日(水) 午前9時30分～午後12時23分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

(1) 議案第25号 令和7年度使用中学校教科用図書採択について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員 (教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	レイノルズあい
委 員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育部長	鋤 田 明 年	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	花 山 浩 一	教育総務課課長補佐	松 田 美奈子
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	教育総務課 (書記)	吉 川 優 香
教育総務課 (書記)	寺 川 寧 々		

6 傍聴者17名

午前9時30分 開会

○開会宣告

- 日程第1 議案第25号 令和7年度使用中学校教科用図書採択について
・令和7年度使用中学校教科用図書採択について、花山教育指導課長から説明
<参照：議案書p1～2、資料1、資料2>
(質疑)

原井教育長：議案書2ページの一覧表のとおり、教科と種目を上から順に審議したい。

【 英語 】

原井教育長：英語については、2東京書籍、9開隆堂、15三省堂、17教育出版、38光村図書、61啓林館の6社である。各委員からのご意見を賜りたい。

レイノルズ委員：全体的に進化している。コンテンツ、表現、デジタルの使い方において今の時代にそぐわった内容に進化している。現在使われている東書と比べてみてもアップデートされている印象。まずフォニックス。東書は優先順位が高く、单元ごとにフォニックスについての学びが触れられている。他の教科書は後ろの巻末に参考資料として付いているケースが多かった。東書は单元ごとにフォニックスで気を付けるところを明記されているところが進化している。これまでよりかなり自然な英語を学ぶという内容になってきている。東書について際立っているのは、扱っている内容がグローバルな社会問題などの話題を取り入れた様々なトピックが入っていることである。三省堂はそれと比べて身近な話題から入っている。中学生が学ぶには東書の内容は難しいかもしれない。もしくは先生が扱っていくには英語を学ぶだけではなくトピック自体も知識がないといけないので難易度が高いのではないかと思った。QRコードやデジタルに関して言うと、各社いろいろな例題を入れているが東書は前回の時点からかなりQRコードのデジタル教材が充実しているという印象をもった。三省堂、開隆堂はQRコードで読み込んだ後に単語練習ができるようになっていて、アプリで単語の意味や読み方をクイズ形式で選んでいけるコンテンツがあるのは英語学習の方法として効果的であると思った。東書、光村は教科書に載っている内容が音声で流れるというレベルであるので、是非このアプリ感覚の単語練習は各社取り入れてほしい。光村は他の教科書と比べて一回りサイズが小さいが、巻末に英語をよりよく学ぶためのTIPSが取りまとめられているのは英語を学ぶ生徒たちにとって、どういう学び方をしたら良いのかというのが分かりやすくまとめられていて良い。その他の教科書に関しては従来の英語の学びという印象であった。総合的に比較して東書のグローバルな内容はレベルが高いとは思いますが、英語を通じて世界の課題や話題に目を向けていってほしいという気持ちもある。各社趣向を凝らしていて難しいところであるが、

生駒の教育としてより高いところを目指していくということで、三省堂か東書が良いが、どちらかというと東書が良いと考えている。

飯島委員：レイノルズ委員が言ったように、東書と三省堂が対照的だ。日本は近年英語教育に力を入れていて、まず外国語活動の時間が小学校に導入され、高学年に教科としての英語が導入され、以前と比べると英語の水準は上がっているはずだが、国際的に見ると日本人は英語が得意であるというような評判が全く聞こえてこない。どちらかというと日本人は英語が苦手という状況はここ半世紀、私の知る限りあまり変わっていないと認識している。その意味で、義務教育段階で何を身に付けさせたいのかが分かるような教科書が重要ではないかと考えている。「英語で」学ぶということが重要なのではないか。英語を使って他国とコミュニケーションを取る、自分の意見を表明するという機会が重要であると思う。三省堂と東書を比較すると、三省堂の方が身近なところから英語を学ぶ機会を提供している印象を受けた。子どもたちに身近なところを英語で表現してもらうことも重要であるが、東書のように社会問題を取り上げて、英語で世界に目を向けさせることは今後ますます重要ではないか。また、東書は他教科との関連、あるいは発展が意識されている。東書のように世界に目を向けたトピックがあるのが良いのではないか。QRコードの動画は各社そつなくまとめられているが、英語は音声ソースに触れることが多い教科書であるので東書のコンテンツが充実している。加えて、印象的だったのは「ごんぎつね」や「毒入り水あめ」など子どもたちになじみ深い教材も取り入れていることだ。英語の教科書としては意外であるが、なじみ深い教材を、英語で表現するとどうなるのか、ということを知りやすく示しているという点で、このアプローチは良いのではないか。1番に東書。2番に三省堂の順ではないか。

吉尾委員：子どもが教科書に触れるときの捉え方、学ぶ視線で見させていただいた。東書は学年で見通しを持って、活動目標が分かりやすく書かれているのがこれから学び始めるスタートに良い。「書くこと」を重視されている。1年生から歌もあり楽しく学べるところも意識している。2年生になると海外へ、3年生になったら社会問題や環境のことを捉え、英語力を使って表現しようという学びを意識されている。現在完了や現在進行形等、文法的なことも詳しく説明されていて良い。開隆堂はいきなり会話から入るのが子どもたちにとってはハードルが高いのではないか。2年生になると生活に密着した英語の表現、3年生になると社会的な課題や問題を多く取り上げ、国際的な視野の必要性を伝えようとしている。三省堂は「書く」ことに重きを置いている。フォーセルフスタディの資料が良い。学び方のコツを伝えながらも主体性を大切にされている。2年生は体験したこと、空港でのアナウンス等、身近に役に立つ英語である。これは他社も取り上げていた。社会問題や原爆資料館のことなど同時に学びながら、自分の考えをどう伝えるかを重視するこ

とも良いと思った。教出は基礎基本を非常に重視していて、楽しく学べるようにゲーム感覚的な言葉を取り入れており工夫を感じた。光村はカラフルでイラストも多めでとっつきやすい。聞く、読む、書くのバランスが非常に良い。2年生で社会とのつながり、3年生では自分の意見を述べることが重視されている。啓林館は文章が長めで文法も詳しく書かれているので良い。ワードボックスも使い易い。1番が東書で2番が三省堂だと思う。

中川委員：どこも表紙から爽やかで良い。いろいろな情報が良く考えられて、編集してまとめられているのが東書である。解説動画等も工夫があり、いろいろなコンテンツを準備してまとまりよく1冊の本にしている。目次を見てみると、ここでどういうことを学習しなければいけないかをよくまとめている。学習のポイントを書くなど、ルールに目を付けてうまく説明されている。中学校の新しい単語と小学校の単語もあり、復習するにも良い。「ごんぎつね」の物語は親しみやすく、状況から関連する単語を理解することが出来る。三省堂も「浦島太郎」や「かぐや姫」を取り上げているところも単語と内容がつながるので、そういう題材を取り上げるのは良い。三省堂は目次等、最初から見やすく編集が良く出来ている。光村は、子どもたちが親しみやすいよう左側に大きなイラストを入れて、その内容を見ながら進めていくのが内容に入りやすい。開隆堂はオノマトペが取り上げられていて面白い。全体的に各社フォニックスを取り上げている。キャラクター表紙もかわいいものが取り扱われていて努力いただいている。1年間のイベントも季節に合わせたものから寒さや暑さ等の単語も子どもたちの感触から身に付くのではないかと。また、音を取り上げていて自然と英語の音程、五感に親しめるので良い。本のサイズは先生方の意見から、少し大きい方が余裕があり子どもたちには親しみやすい。よって東書が1番。次いで三省堂だと思う。

原井教育長：「2東京書籍」を採択することで、異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【東京書籍を採択】

【国語】

原井教育長：国語については、2東京書籍、15三省堂、17教育出版、38光村図書の4社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：4社非常に差が小さい。国語の教科書は書籍として読まれる時間が長い。本である以上、装丁や表紙の美しさも重要である。各社とも子どもたちが開いて見たくなる工夫が凝らされている。ページの見やすさについて、文字数・文章量が多いため紙面が目にも優しいかどうかだが、その点で光村のクリーム色が目にも優しい色合いではないか。各社とも厚みがあり、学校の先生が丹念に読んでいこうとすると時間が足りないのでは、これを使って授

業をする際には緩急が必要である。丹念に扱うところと、大胆に子どもたちに読ませて自由な活動をさせるという工夫も必要だ。そういう意味で各社、授業をどう進めるか、教科書をどう使うのか、子どもたちがどう学んでいけば良いのかを丁寧に説明している印象をもった。前回の国語の採択の時も古文について比較した。子どもたちは中学に入ってから古文・漢文を学ぶので親しんでもらうことは重要である。その意味で、光村は原文と現代語訳を併記してルビのように表記しており、視線の移動が少なく読めるのではないか。古文を見ながら現代語訳も頭に入ってくるので原文を読めた印象をもつのではないか。その意味で光村の表記が良いのではないか。光村は読むことから始めて学習が広がるということに意義を見出している印象がある。東書は社会とのつながりを意識しているのではないか。学校教育活動との関連を意識していて、広い視野を持たせようとしているのではないか。光村は人と人や、人と自然、自己とは、人生とはといったように、さらに東書より広く、生きるとは何か人間とは何かに思いを馳せるような学習単元があると総合的に見た。本としての見やすさや、学習の取り組みやすさから光村が第一、次に東書である。

吉 尾 委 員：東書は国語で何を学ぶのか示されて作られている。国語の入口にふさわしい教材がある。プレゼンテーションの教材は伝えることの勉強になるのではないか。資料の中には時候のあいさつや手紙の書き方なども載っていて良い。国語なので言葉の美しさや響きの良さも学んでほしい。三省堂は思考の方法が視覚的に訴えられていて具体的だが、子どもたちが型にはまりすぎないかと不安にはなった。「始まりの歌」の歌詞を取り上げており、歌詞が心に響く。若い世代を捉えていて楽しいポイントであると感じた。「小さな図書館」で本を紹介しているところが充実している。短歌俳句に工夫があって分かりやすい。教出は本が分厚い。本題に入る前の解説があるが、子どもたちが学んでからそれぞれの想いをもって解説に入る方が、振り返ることにつながり良いと思う。メディアリテラシーのことを取り上げている。真実を学ぶことは大事である。光村は非常に落ち着いた教科書だと思った。「思考の地図」は工夫して使えば主体的に子どもたちが自分を発信できる教材だと思う。光村の「走れメロス」や「故郷（魯迅）」を通して何を学ぶのかという考え方が共感できた。使う先生、子どもたちにも共感されるのではないか。俳句の創作教室も分かりやすい。作ってみたいと自分から発信していくことにつながるのではないか。光村が良い。

中 川 委 員：光村が良かった。最初に、学習の見通しのところでそれぞれの教材のどんな価値が秀でていたかが上手くまとめられており、それに沿って各教材の取組が考えられているので、教材の価値感をどう広げるのかについても分かるようにしている。欄外に新出の漢字を青色で書いてあり、その下に熟語もありと充実しているが、詰め込み感が無く分かりやすくて良い。東書

はよく編集されている。国語の付けたい力、例えば細かい手紙の書き方や国語に関連する力の付け方などが上手く編集されている。教出、三省堂も、表紙や目次の構成がきれいで心に残る教科書であるが、写真の使い方や言葉の力を伸ばす力になってくれる光村が良い。

レイノルズ委員：光村の教科書は代々使ってきたというイメージがある。ただ他の3社もいろいろな内容の工夫がある。東書は内容量、難易度が中学生に適している。三省堂も短歌、俳句、百人一首が掲載されていて、教材に付随した語彙が豊かである。現場の先生方が取り扱いやすい観点を優先させたい。それ以外の部分では、例えば教科書の見目で、教育出版は字が小さめであると感じた。光村は、ページの上部にページ番号が記載されている。古文では現代語訳の表記の工夫があり、進めやすい配慮がある。光村に関してはフォント、紙面が見やすい。各社いろいろな内容で充実しているが、先生方や委員の皆さんから意見があった通り、総合的にはやはり光村を継続するという事で良いと思っている。

原井教育長：「光村図書」を採択することで異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【光村図書を採択】

【 書写 】

原井教育長：書写については、2東京書籍、15三省堂、17教育出版、38光村図書の4社である。各委員からのご意見を賜りたい。

吉尾委員：毛筆の見本をいろいろ見た。比較してみると光村は用紙が2ページにわたるが実際のものと同じサイズで良い。東書も手書きを大事にされている。光村にタブレットの使い方、姿勢のことも掲載されていたのが良いので光村が良い。

飯島委員：毛筆の筆運びや実用的なところも過不足なく記載されていて、差が無く選び難い。筆使いがいかにかという観点でいくと、東書は左利き右利き用で道具の置き方が書いてあるのは分かりやすいが筆運びの左利き右利きの使い方は分かりづらい。その点では光村の方が分かりやすい。東書はイラストが立体的で光村は平面的。白、黒2色で平面を表現している。立体的な筆使いよりも、とん、すー、ぴたの筆使いの記述がある光村の方が分かりやすい。東書がSDGsという観点から、アルミボトルで筆を洗うというような紹介をしているがこれは確かに良いことだ。現行の書写の東書を継続して使う選択肢もあるが毛筆に親しむ、筆使い筆運びという点で、非常に差は小さいが光村が使いやすいのではないかと。国語の教科書の関連でいえば、同じ光村を使う方が関連しやすく良いのではないかと。

レイノルズ委員：国語の教科書との関連性で出てきた文字を、書写で改めて学ぶという流れから光村が良い。行書の指導において、自分の名前を書くというところも必ず始めるところだと思うので、文字のバランスなどを考慮されているところが良い。毛筆のお手本が大きく見開きで示されていて、子どもたちが見て学びやすいのではないか。他の教科書も各社充実はしているが国語の教科書との関連性で光村が良い。

中 川 委 員：運筆については光村が分かりやすかった。他の会社は少し小さくて分かりにくかった。光村であれば、例えば「雲」の上の「雨」の部分だけ取り出して大きく説明していたり、ポイントについて大きく書いてあり分かりやすい。QRコードについて、光村は字の幅、大きさ、間隔を説明してから書く。他は書く順番に説明があるので時間がかかる。子どもたちには最初にバランスなどを教えてあげる方が良いと思った。総合的にやはり光村が良い。

原井教育長：「３８光村図書」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【光村図書を採択】

【 地 理 】

原井教育長：地理については、２東京書籍、１７教育出版、４６帝国書院、１１６日本文教出版の４社である。各委員からのご意見を賜りたい。

中 川 委 員：特に帝国は写真もきれいで説明と図形と地図が上手く入れ込んであって良い。デジタルコンテンツも豊富にあり、それぞれの内容を補充してくれる内容の資料であった。写真も海外の物が多く地図との連携が上手くできていてどれもきれいであった。登場人物も上手く疑問を問いかけていて学習の深まりにつながるような配置であった。東書も写真がきれいなものが多く目を見張るものが多かった。写真、地図、イラストの関連性を考えると帝国が良い。次いで編集力の良い東書。

レイノルズ委員：問題解決的な工夫がされている。特にSDGsについて積極的に取り入れておられる。持続可能な社会について考えることは必ず必要なこととなってきているので、事例や資料等工夫がされていて良い。これまで地理は帝国を使うことが多かった。帝国は生徒の意欲を引き出すような資料が充実している。文章の表記や地理の教科書として見やすく編集されている。各章問いが設けられていて、生徒はその問いに対しての見通しをもって考えながら学習を進めていくきっかけになる良い工夫である。見やすさ、内容の充実さにおいて帝国が良い。

飯 島 委 員：以前よりも各社ともにデザインや目次等がよく似ている。個性的な教科書でなく地理分野の教科書として編集されているため判断しづらい。東書は資料活用能力を意識して指導するようところが評価できるのではないか。

帝国のアクティブ地理というコーナーで、課題解決に向けた取組を上げているのが評価できるのではないか。中学校社会科では現代社会が抱えている問題を解決するというのが、今後さらに重要になってくるので、課題解決や資料活用能力は非常に重視されるだろう。それが、帝国の教科書に分かりやすく記述されていた。地域調査でも比較した。各社とも着眼点が異なるが、良いと思ったのは帝国が環境保全という観点を重視しているところだ。既に重視されているが、それにもかかわらず環境保全が十分になされていないための問題が世界各国で起こっているため、今後さらに重要となる課題である。自然科学や人文科学に関わる問題も含んでいるのでこの課題は単一の学問分野、単一の教科ではなくトータルに考える必要がある。環境保全の視点で考えさせ意識させるということで、教科を超えるアプローチをというメッセージを帝国の教科書から感じた。そういった点で帝国が良い。次いで東書が良い。

吉尾委員：SDGsの捉え方は大変重要である。帝国がより良い社会を目指すという点で良い。竹島の部分は分かりやすい文章であった。学習は何が大事であるかを振り返ることが大事である。その点でも帝国は分かりやすい。地図も見やすい。日文は「地理的な見方考え方って？」という提案が分かりやすかった。まず、地理とは何かを知って学んでいくところが良い。従って、1番が帝国。次いで日文。

原井教育長：「46帝国書院」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【帝国書院を採択】

【 歴史 】

原井教育長：歴史については、2東京書籍、17教育出版、46帝国書院、81山川出版、116日本文教出版、225自由社、227育鵬社、229学び舎、236令和書籍の9社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：どこも検定を通っている点で問題ないとは思いますが生駒市の教育の観点でどれが望ましいか考えた。第二次世界大戦の終わりを、物心ついた状態で経験している人がほとんどいなくなる。その時代を経験した人しか語れないことを新しい子どもたちの世代に伝わりにくくなってきている。そういう意味で歴史の教科書は重要な意味をもつ。日本の第二次世界大戦の歴史というのは、国際的な主流から一時外れてしまったが、戦後の教育改革の中で日本を国際社会の潮流にもう一度戻した、新しい出発をした、その意味で評価されるべきことだと思う。80年近く日本に平和をもたらしたことは評価されるべきだ。ただ現在の社会は戦争が現在進行形で起きている。日本も今後巻き込まれないとは限らない。そういう事を考えると、二度と教え子を戦地に送らない、日本を戦争に関わらせてはならない、というはっきりとした意

思を持って教科書を選ぶのが重要ではないかと思う。歴史的な事実を出来るだけ中立的に、変更せずに書いてあることが重要なのではないか。今回の採択に当たって、例えば第二次世界大戦中の沖縄の集団自決であるとか、南京事変の記述であるとか、過去に議論になっていた問題についてできるだけ中立的な記述ができている観点で見ると、東書、日文がその事実から逃げずになされているという印象である。他の会社は少しその部分において弱いのではないかという印象をもった。戦争を二度としないという立場で子どもたちを育てるのであれば、東書、日文の2社から選ぶのが良いのではないか。資料的には東書、日文の教科書は見やすく配置も記述も分かりやすい。学習活動のきっかけとなる提案についてもなされていて、教科書の基本的な部分について助けとなるような配慮がなされている。順位は付けづらいが東書と日文が良いのではないか。

中 川 委 員：民主的な社会を作る子どもの育成のためには事実に基づいていろいろなことを考え話し合いを深めていくことが子どもたちの1番大事なところである。戦後社会科が出来上がり、そのための社会科であったのだと思う。各教科書の特色があり自由社、令和書籍は白黒で親しみにくい。自由社と育鵬社は新党から取り上げてある。取り上げるのは良いが事実的な事を調べるのが難しいことも書いてある。内容から見てみると令和書籍は量が多いのでとつきにくい。東書と日文は編集者に先生も加わって子どもたちとどのように進めていくのかという観点が入っている。日文は大阪書籍からのつながりで関西の情報も多く入っていた。東書は写真と編集がしっかりされていて、子どもたちが見やすい紙面になっている。資料、写真、図、きれいに入っている。年表は、日文は白色だったので東書の方が見やすい。帝国も資料はたくさんあったが見やすさがあまり良くない。教出は発色が良くない。日文と東書が良かった。使いやすさ、分かりやすさで東書が1番。

吉 尾 委 員：社会科は知って考えて調べて発信していくという学習の流れにつながっていることが分かる。1人ではなく皆と調べると協働的な学びにつながる流れが社会科にはある。日文と東書が良いと思った。東書は興味を持たせようとする作りである。日文はオーソドックスな作りであるがポイントが抑えられている。平城旧跡のことが載っているので子どもたちも身近に感じるだろう。教出はテーマの取りあげ方が工夫されていて子どもの興味付けに良い。育鵬社は歴史の年表を物差しとしているのが面白い。子どもたちも物差しとして時代の長さを知ることはイメージしやすい。令和書籍は今までにない視点の教科書だと感じた。

レイノルズ委員：歴史の教科書は毎回、採択において各社色が分かれると感じる。生駒市としては中立的な立場をとっていることがふさわしいと感じる。第二次世界大戦の表記は各社の色が分かれるところである。総合的に見てその点で東書、日文が良い。QRコードを使ったデジタル資料の活用も大事だと感じ

る。動画やその他の資料で学べるものがたくさんある。是非、端末を活用して学習を進めていってほしい。その観点でもQRコードの数や内容的な充実度において東書、日文が良い。どちらが良いかは決められなかった。

原井教育長：学校現場の先生の意見では現行の教科書である東書が使いやすいという意見があるが日文とどちらが良いか。

中川委員：写真や資料として使いやすいのは東書だと感じるので東書が良いのでは。

飯島委員：日文、東書は、例えば技能を磨くスキルアップのようなコーナーで、基礎的・基本的な技能習得を重視している社会科において2社の優劣付け難いが、圧倒的に日文が良いという意見がないのなら、現行が東書で、先生方からも使いやすいというご意見が出ているということを踏まえ、東書を選ぶべきではないか。

原井教育長：「2東京書籍」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【東京書籍を採択】

【 公民 】

原井教育長：公民については、2東京書籍、17教育出版、46帝国書院、116日本文教出版、225自由社、227育鵬社の6社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：各社差が小さく悩ましい。特に表紙や内容の編成、あるいは図版の使い方に各社の努力を感じる。生駒市の学校では人権、特に新しい人権、いじめを許さないといった姿勢が読み取れる教科書が良いのではないかと。18歳成人となってから数年経つが、根付いたかという点はまだ十分でない。中学校3年生の3年後には成人となるという意識がまだ十分に身につけていない。今後の社会人を育成するという評価にあって、その部分を意識させる記述があるかどうかは重要だと思う。東書には18歳成人を意識させる記述が他社と比べて強いと感じた。この点で東書が良いのではないかと。また、小学校の教科書の採択のときにも意見があった領土問題については、小学校教科書ではやや記述不足という意見があったが、中学校では小学校に比べると各社記述できていると感じた。中でも東書、日文が日本の取組を分かりやすく、比較的詳しく記述していると感じた。その点からは、東書と日文が良いのではないかと思う。内容の見やすさ、資料配置の総合的な観点から東書が1番良いのではないかと。次いで日文。

中川委員：全体的に東書が資料や編集、写真、説明が分かりやすい。学び方も一貫して教科書の編集の仕方が分かりやすく、子どもたちがどこでどう学んだら良いのかがよく分かりやすい編集になっていると思う。イラストも多く見やすい。日文はイラストと資料のつながりが良いので、もう少し子どもたちのモチベーションを上げるような写真などのインパクトがあれば良いと思っ

た。見開きでSDGsの表記をしているところは良かった。教出と帝国は文字が多く説明的で、とっつきにくい。自由社と育鵬社は表紙がきれい。中身は伝統、愛国心に詳しいように思った。反対に民主的な社会の創造についての資料は少ないようにも思った。育鵬社はイラストが少し子どもっぽいと感じた。アマゾンのサブスクの写真なども新しい部分を取り上げていて面白いと思った。少し客観的な資料を入れていただくと、子どもたちが発展的に考えやすいと思った。全体的に見ると、1番は東書。次いで日文。

レイノルズ委員：各社色が出る。日本国憲法や憲法改正の考え方も差が出る。生駒市は歴史と同様、なるべく中立的なのが教育にふさわしい。その観点で東書、日文が良い。東書はレイアウトとして学習課題資料が同じ位置に配置されており見慣れていて使いやすい。振り返りのページ数も多く具体的な学びにもつながり、先生にとって授業展開しやすいのではないかと。公民と歴史に関しては特に市民の方のアンケートの声がトピックとして多かったところから中立性の観点で東書、日文。順番は難しい。

吉尾委員：東書が1番良かった。決まりやルール、人権を中心に展開されている。18歳にできること、20歳にできることの記述が分かりやすくポイントがおさえられていて、子どもたちが自分のこととして捉えていけると感じた。SDGsやCO2排出のことも分かりやすい。教出は歴史との関連付けでアプローチされていて教科を飛び越えていろいろな事を学ぼうというのに興味をもてた。帝国は表現に幼さを感じるころはあった。一人暮らしにどれくらいお金が掛かるだろうという表記を見て、子どもの興味を引くし、これも公民の学習だと感じた。日文は導入が丁寧すぎて回りくどさがあると感じた。経済は内容が高度である。女性の働く環境、高齢者の雇用など今の社会課題を中学生の頃から学ぶ着眼点は良いと思った。自由社はトランプ大統領の名前を出す必要があるのか疑問であるが、紙の反射が少なくて良い。育鵬社は主体的な学びを意識しているが少し情報量が少ない。部活動のグランド割は身近なアプローチで、子どもたちが公民を捉えるきっかけになって良いと感じた。総合的に東書。次いで日文。

原井教育長：「2東京書籍」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【東京書籍を採択】

【 地図 】

原井教育長：地図については、2東京書籍、46帝国書院の2社である。各委員からのご意見を賜りたい。

吉尾委員：東書はSDGsについて詳しく書かれていると感じた。地図に必要なと感じるところはあるが、SDGsは大事である。気候や地形にも関係してくるところである。東書は写真や立体図が非常にきれい。帝国は最初の世界

地図が非常に見やすい。まず日本列島の表記があり、そこから各地方のことを学習していく流れは学びやすいと思う。帝国は情報量が多いが子どもたちひとりひとりがピックアップしていけば世界に興味をもって学んでいけるのではないか。帝国は自然災害のデータも多い。いろいろな学びにこの1冊でつながっていく可能性があるので帝国が良い。

中川委員：防災の部分があり、そこもイラスト、地図、資料が上手く組み合わさっていた。色的に見ると東書より帝国が見やすい。また、例えば北海道は折り込みの地図で土地利用図が載っているなど工夫されているところがあり、地図と子どもたちの学びを考えている取組が見られた。スペースがあり、調べた情報にアクセスできて、子どもたちが見た目ですぐ分かるところからも、帝国が良い。

レイノルズ委員：どちらの出版社も見やすい地図となるよう工夫されている。現行の帝国は、フォントの使い分けもあり見やすい。奈良についても詳しく表記されている。東書は全ての教科書においてQRコードなどのデジタルコンテンツが充実している。地図を活用した技能の解説であったり、クイズもありすがだ。それぞれ別の見やすさがある。地理は帝国が採択されたことと、見やすさなどの観点で帝国が良い。

飯島委員：ページ数は帝国の方が多く、情報量も多いかもしれないが重くなる。地図として見やすいかにおいて、帝国と東書それぞれの地図帳を単独で見たのでは、どちらが良いのか判断つかないが、並べてみたら帝国には山脈の三次元情報が入っている。情報が多いが煩雑にならず見やすさを保っている。山脈の位置情報があることで、どこに人が住んでいるのか見やすい。地図には必ず文字情報が重なってくるが、その重なっている文字情報が見やすいという点では、帝国の方が見やすい。それから近畿地方に地震災害の備えや、通勤通学の図など、日常生活に即した人の動きを地図に重ねている点で面白いと思った。ヨーロッパの地図には歴史的变化の軸も加えられている。帝国は東書に比べて、地図を通して立体的なもの、現実の人の動きの時間的变化、そうしたものを重ねて読み取る工夫があると感じたので帝国が良い。

原井教育長：「46帝国書院」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【帝国書院を採択】

【 数学 】

原井教育長：数学については、2東京書籍、4大日本図書、11学校図書、17教育出版、61啓林館、104数研出版、116日本文教出版の7社である。各委員からのご意見を賜りたい。

飯島委員：前回の採択では空間図形の表現の仕方が分かりやすいかどうかで比較して差があったが今回その差が小さくなっている。数学は積み上げていく学習だと思う。数学で初歩的な概念に親しみを持たせることは非常に重要である。各社その配慮がなされていて差が小さいし発展的・探究的な学習への手引きや練習問題の差は小さいと思った。今回はデータ分析について注目した。数学は世の中の現象を読み解いていく手がかりとなる。どのように読み解いていくのかが重要になるのではないかと考えた。例えば日文は、「データ分析とは何か」という定義から入っている。教出は「京都の冬日」というところから入る。大日本は「多摩市に住みたいか」というところから入っている。学校図書は「好きなスポーツ調査は有効か」、啓林館は「都道府県睡眠ランキング」というように、子どもたちの日常生活に即して興味関心を持ってくれそうなどところについて工夫を凝らして取り扱おうとしている点で評価できると考えた。ただ、何の標本を扱うかということより、標本調査の際に標本を選ぶことが重要であることを子どもたちに意識してもらいたい。数研出版は子どもたちに標本を選ばせる点で良い。数研は学習の前に振り返りというコーナーを設けて配置してある。過去の学習経験の上に積み重ねるという部分が他の会社よりも、より強く意識されている。分からないものを残さずに復習した上で積み重ねていくという扱いは重要だ。また、図形の証明で比べた。証明の方法の分かりやすさでいうと、東書はページ内の密度が少し高く、情報量が多いのではないかという印象をもった。数研の方が見やすいという印象をもった。数学の例題や章末問題の難易度については、数研は問題数も多めで難易度も決してやさしくはないと思う。しかし生駒市の中学生の学力を考えると数研をスタンダードにする学力から、更に向上を目指すということが実現可能だと思う。もし実現できていないことがあれば、指導を充実させるという方向で、授業を取り囲んでいけるレベルにあると思うので、数研が1番。次いで東書。

吉尾委員：算数、数学は小さい時からの積み重ねが大事。数研は中学校2年生の教科書で小学校の内容からの振り返りの復習があって良い。数学旅行というネーミングも良いと思う。興味を持って数学の世界を広げてほしいと思う。食わず嫌いにならないよう挑戦してほしいし、興味を引く言葉も大事だと思うので、表現が大事である。その点で数研が良いと思う。教出は少し難しい印象。啓林館はやや難しい印象。大日本は例題が大変身近である。身近なことからいろいろ調べて、学んでいくということも大事にされている。東書も振り返るページがあって良い。総合的に数研。次いで東書。

中川委員：どの教科書も色がきれいで見やすい。1番余裕があって見やすいと感じたのは数研であった。練習問題も適切で、色分けやまとめもきれい。数直線も比較したが、分かりやすい大きで見やすい。東書はデジタルコンテンツが充実していていろいろな発見ができるのが良い。啓林館は見やすい紙

面だった。数研は写真もきれいで子どもたちのモチベーションも上がるような編集であったので、数研が1番良い。次いで東書、啓林館。

レイノルズ委員：苦手意識をなるべく克服できるような構成が良いと思う。振り返りがあって復習できる積み上げの学習が大事だと思う。その点では数研が良い。数研は章の始まりに振り返るセクションが設けられているため、学びを積み重ねていく、分からないままにしておかないという点において使いやすい。数研は現行の教科書だから見慣れているのかも知れないが、ページ数も見やすい。現場の先生方も数研が使いやすいという意見があったので数研が良いのではないかな。

原井教育長：「104数研出版」を採択することで意義ないかな。

（異議なし）

審議結果 【数研出版を採択】

【 理科 】

原井教育長：理科については、2東京書籍、4大日本図書、11学校図書、17教育出版、61啓林館の5社である。各委員からのご意見を賜りたい。

レイノルズ委員：各社タイトルも違って面白。特に啓林館は未来へ広がるサイエンスということでポジティブで良い。科学は数学同様中学レベルは難しくなっていくというイメージだが、啓林館に関しては教科書に用いているイラストや写真が日常生活に出てくるようなものが多い印象だった。日常とリンクさせ身の回りから物質を学ぶことができ、科学とは日常にあるものなのだ、というのがリンクしやすく面白い見せ方だと思った。啓林館でいうと地震・津波の単元があり、防災減災ラボというコーナーが設けられている。日本は自然災害が多い国なのでそれに対してこういった備えが出来るかというのを、科学を通じて学べるのが非常に工夫されていて良い。現場の先生方の意見をみると啓林館に記載されているものに合わせて実験器具をそろえているので、目の前の実験器具と教科書に出ている実験器具が同じの方が準備が進めやすいという意見があったのと、内容の部分からも啓林館が見やすいのではないかな。

中川委員：どこの会社も写真等に努力していただいている。本当に良い写真がたくさんある。啓林館は特に子どもたちのモチベーションが上がる芸術的な写真がたくさんあって印象的で素晴らしい。写真の中に文字やイラスト、説明がうまく入っていると。動物のところでは動物の骨が虹色で染めてあり、こんな風に見せるとまた見え方が違うなと思った。学習の理解にもつながる洗練された写真だと思った。編集力では東書は力がある。実験の内容が分かりやすい写真が用いられている。他のところも写真等頑張っていたが、1番印象的な写真やイラスト、それをうまく編集して子どもたちの力にする啓林館が1番。次いで東書。

飯島委員：2人の委員と同様、啓林館の写真が非常に良い。それ以外は学習指導要領にのっとって丁寧に書かれており、観察や実験についても分かりやすいので非常に差が小さいと思った。中でも東書と啓林館が良いと思った。東書は基礎から難易度の高い学び、教科を超えた学びを意識している。東書は他の教科でも教科を超えた学びを意識しており評価できる。しかし全ての教科でそれを記述していないといけない訳ではなく、教科を超えて学びが広がるという意識が子どもたちに生まれていけば良い。理科だけで教科を超えた学びを実現しなければならない訳ではないと思った。啓林館は小中高のつながり、日常へのつながりといったところが評価できると思う。特に実験のページや探求学習のページが分かりやすいという印象をもった。探求は今後さらに重視していかなければならないアプローチであるし、それが分分かりやすく見開きで示されている啓林館が良いと思った。光の伝わり方や力のつり合いといったものが余白を活かして分かりやすく視覚的に作成されているところが良い。探求シートも子どもたちが学ぶプロセスを取り出し、対象化して意識できるところも良い。したがって啓林館が1番。次いで東書と考えた。

吉尾委員：理科は探求することが1番意識される学習であることが、どの会社からも読み取れた。中でも、東書はまさに「探求」をキーワードにしてそれぞれの学習の単元を作られている。言葉のチョイスが非常に良い。写真も大きくきれいだった。学校図書は、少し固い感じもしたが、なぜ理科を学ぶのかという問いかけの部分が分かりやすい。教出は少し写真が小さめだと思ったが、自分で実際に経験するということを重視されているのは良い。啓林館は「探求」ということを分かりやすく表記されていたし、写真がきれいだった。巻末と探求シートは詳しすぎるといった部分はある。しかし理科というのは資料がきれいだということが非常に大事だと思うし、算数数学とのリンクも良い。いろいろ考えて啓林館が良い。強いて言えば次に東書。

原井教育長：「61 啓林館」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【啓林館を採択】

≪ レイノルズ委員 退席 ≫

【音楽】

原井教育長：音楽については、17教育出版、27教育芸術の2社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花山課長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。教芸の方が、QRコードが多く動画サンプルが多い。中1の69ページでは日常の音なども紹介しているのが

良かった。教出はコンピュータでの音楽づくりに触れているのが現代らしい。音楽は良いお手本にたくさん触れることで理解や上達につながると思う。その点においては動画サンプルがたくさんある教芸の方が、生徒が使いやすいと考える。教芸が良い。

飯島委員：2社とも内容的には伝統的な曲や最近の曲、子どもに馴染みやすいもの、古くから価値のあるもの、というようにバランスよく取り上げていると感じた。その意味では甲乙付け難い。子どもの学習活動の分け方について、教出は「歌唱」「鑑賞」「創作」という3つに分けている。教芸は歌唱、創作を「表現」に入れて「鑑賞」を別にしている。くくりは若干異なるが、基本的なところは同じであると感じている。ただ、歌唱と創作は子どもたちを表現者として位置付けていて、鑑賞は子どもたちが音楽を聴く・感じるということに重点を置いているという点から考えると、子どもたちの中にあるものを表現するのをまとめる方が分かりやすいと思った。それから教芸の方は学びのコンパスというところで学びをどのように進めていくのか、その羅針盤的、地図的なものが得られて良い。創作活動について教芸は伴奏を工夫することで表現の奥深さにつながることに気付かせるとあり、同じメロディであっても伴奏を変えると変わっていくことに気付かせるという指導内容が良い。それを自分たちで取り組んでみることで、音楽というものをより気軽に楽しむことが出来ると思う。自分なりに声を出してみよう、自分なりの声が良いものだ、と気付かせるところも魅力的である。そうしたことから教芸が良い。

吉尾委員：教出の「1年生の学習内容」を見たが、横へ流れていくのが大変見やすい。魔王の歌について、まずストーリーがあって鑑賞に進んでいくという導入の工夫が良く、子どもたちも聴けると思う。著作権について知っておくことも大事なので、もう少し分かりやすくしてもらえれば良いと思う。教芸はQRコードが多く、家に帰ってもいろいろな曲を振り返って聴けるのが良い。音楽を深く楽しめる。「変声期の心得」というところもあり、配慮を感じた。民謡に触れる機会も挙がっている。なかなか自分から聴けないので取り上げていくことに意義を感じている。同じ魔王を教出と比べてみると、教芸は旋律を紹介しながら具体的に説明しているという部分も非常に良い。それぞれ良さをを出しておられる。総合的に教芸が良い。

中川委員：教芸のQRコードを見てみると、パート別のピアノが入っていたり、歌唱が入っていたり、工夫があった。また、1番最初の学習内容のまとめも上手くまとめており、子どもたちがどこを頑張れば良いか、先生方はどこを評価していけば良いかというのも分かりやすいまとめになっている。全体的に編集も投資されているように思った。教芸が良い。

原井教育長：「27教育芸術社」を採択することで意義ないか。

(異議なし)

審議結果 【教育芸術社を採択】

【 器楽 】

原井教育長：器楽については、１７教育出版、２７教育芸術の２社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花山課長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。リコーダーの指運図など教芸の方が見やすく感じた。教芸のほうが、紙面構成も見やすく、タンギングや、琴の奏法についても丁寧に説明されている。音楽の教科書と同様にデジタルコンテンツが充実している方が生徒にとって良いと思うので、教芸が良い。

飯島委員：教芸は表紙を開くと「ドラムソロは誰だ」という記述が出てきて、曲に対して誰が弾いているんだという興味関心を取り上げるところから、「音楽とは何か」という本質的な問いを掲げる導入として良いと感じた。教芸は目次とは別で学習する内容を生徒に示している教科書で、何が学べるのかを生徒に分かりやすく伝えられるのではないかと思った。そして楽器について、ギターは両社とも取り上げている。教芸は冒頭に近い部分に配置してクラシックとフォークとエレキの３種を取り上げている。中学生高校生であればバンド等の演奏に興味を持つ年齢だと思うが、馴染み深い楽器に興味を持たせるように取り上げているところが、子どもたちの興味関心にあっていると思った。楽器の奏法も分かりやすい。選曲のバランスも良い。この選曲のバランスについては教出と大差ないが、音楽と器楽が同じ会社の方が楽譜の見え方なども同じなので親しみやすいのではないか。したがって、僅差ではあるが教芸が良いのではないか。

中川委員：教芸の方が学習内容のまとめがあり見やすい。先生もどこを中心に評価すれば良いかが分かりやすいと思う。リコーダーの演奏方法も詳しい。例えばリコーダーの姿勢やくわえ方も記載されていて良い。これはくわえすぎ、これは浅い、というような細かいところまで忠実でもあり良かった。教出は見開きのリコーダーの運指などのところが良いが、やはり教芸の方が分かりやすかったように思う。

吉尾委員：まず基本はリコーダーだと思うので、リコーダーの扱い方や中身は教芸が良い。楽器の紹介の数も多く、身近な楽器もある。いろいろなものがあるということを知ってほしい。楽器はここでしか紹介できないので良いと思う。楽器も曲も教芸は多岐にわたっているので教芸が良い。

原井教育長：「２７教育芸術社」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【教育芸術社を採択】

【 美術 】

原井教育長：美術については、9開隆堂、38光村図書、116日本文教出版の3社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花山課長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。開隆堂は表紙に凹凸が感じられるように作られていたり、光村は和紙のような紙が使用されていたり、日文は浮世絵のページの質感に工夫があるなど、各社教科書の紙質などからもそれぞれの工夫がみられる。その中でも、光村は取り外せる資料があり、作品を作っているときにも生徒は便利に使用できると考える。他教科書との関連がある題材については、「〇〇科とのつながり」としてミニコラムを記載しているところも評価できる。光村が良い。

吉尾委員：3社とも非常にきれいでずっと見ていられる。写真に大変拘っていると感じた。開隆堂は最初の岡本太郎の言葉が良い。美術は苦手な子もいるので、まずやってみてよ、というところを楽しく伝えるのが良いと思った。掲載の写真も良い。光村は美しいものに触れるというところを非常に意識されている。写真の内容に身近なものが多く、身近なものにもこんなにきれいなものがあるのだと子どもたちが気づくのではないか。また、光村の風神雷神の写真は非常にインパクトがあった。世界中の仮面も面白い。2, 3年生の環境問題も取り上げているし、中に和紙のような紙を使用しているなどの工夫も見られた。アニメや漫画、ピカソの写真もあり、チョイスが良い。日文は学ぶことについての記載が多く少し学習的な感じがした。土器の写真の迫力があって良い。2, 3年生で芸術として漫画が取り上げられている。アニメは今の日本でも芸術として取り扱われていると感じている。美術は見て触れて感じるということが大事だと思うから光村が1番。次に日文。

中川委員：先ほどもあったように、非常にきれいな写真ばかりで良い。日文はいろいろな作品が出てきたが子どもの制作の場面があまりなかった。光村は生活の中から制作していく、学ぶ本として良い。日文は違った文化に触れるのに良いと思うが指導する分には光村が1番良いと思う。次いで日文。

飯島委員：美術は特に美しいものに会うことが重要だと思うので、教科書を巡りたくなる、見て美しく感じるということが重要ではないかと思った。中を開いて美しいものに会うことが、美術を学ぶモチベーションにつながると思う。作品によって感動させるという点では光村のように美しいものを意識させるところから学習を始めるのが良いと思った。先生と子どもが何のために学習するか、その部分についても各社とも共有されていると思う。昔の教科書であれば先生のための教科書という印象が強かったが、子どもたちが学ぶための教科書という意味で、教科書の質が高くなっているという印象がある。開隆堂は新海誠さんを取り上げて、子どもたちの興味を持ってもらおうとしているところなどが良い。日文は、1年生では身近な者への関心、2, 3年生ではより広いものへの関心とそれぞれ工夫がなされている

と感じた。光村の長所は、作業が写真と関連づけて示されている点だと思った。美術の創作活動を行う上で作業が分かりやすく示されていることは重要なのではないか。現行では日文だが先生方の評価として光村と日文が高いのは、現行教科書と比べても使い勝手に大差ないと感じておられるからではないか。それを考えると光村の教科書が第一。僅差で絵巻物や仏像への親しみやすさや工夫が見られる日文が良いのではないかと思う。

原井教育長：「３８光村図書」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【光村図書を採択】

【 保健 】

原井教育長：保健については、２東京書籍、４大日本図書、５０大修館、２２４学研の４社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花 山 課 長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。熱中症について各社記載があり、生駒市としても丁寧に子どもたちに伝えていきたい内容であるので良い。大修館はＱＲコードや動画、ワークシート、保体クイズなど充実している。章末には観点別の問題が載っており、学習内容の復習にも役に立つと考える。資料や図が見やすく学習しやすい紙面構成となっている。大修館が良い。

飯 島 委 員：４年前の採択時はＬＧＢＴＱに関する記載があるかが非常に重視されていた。当時に比べて意識は高まっている。全てを保健体育に任せないといけないわけではなくなっていると感じた。保健体育は、健康について最も充実させるべきだと考えた。生活習慣病の早期発見や予防については各社記載されているが、特に東書と大修館は意識されている。高齢になってから健康寿命を改めて意識して取り組んでは遅いので、中学生の生活習慣病とあまりなじみがない年齢段階から意識してもらうことが大事である。また、家庭の中で両親や祖父母に子どもからのアプローチをしてもらうことも大切だ。その点でも東書と大修館は評価できる。心肺蘇生法とＡＥＤについては、分かっているが使えない・使うのがためらわれるという子どもは多いと思うので、特に図が分かりやすい大修館が良いと思った。その他資料が充実しており章末問題がある点でも大修館が良い。現行教科書であることから大修館が良いと考えている。

中 川 委 員：大修館は親しみやすく迫力のある写真がたくさんある。学び方ではブレインストーミングを取り上げていたり、デジタルコンテンツの動画など工夫がみられた。章末の書き込みも良かった。キーワードをまとめてあり、性的マイノリティやハザードマップも取り上げていた。学研は迫力ある写真が多く子どもたちのモチベーションを高める工夫がある。ＱＲコードも多かった。東書はＳＤＧｓやアレルギー、犯罪被害、アンチドーピングなど

現代的な内容もある。大日本は写真の迫力があつたが本文の文字が小さかった。心肺蘇生について大きく取り上げており見やすかったが、全体的な見やすさは大修館。次いで学研。

吉 尾 委 員：保健体育は人体図などのイラストがメインと考えた。その中で大修館の図やイラストが1番見やすかった。スマホ習慣を見直そうということで、それをしっかり子どもたちに伝えており、体を大切にするという意味も含めて大事だと思う。学研は薬物乱用の記述が非常に分かりやすい。教科書の使い方も分かりやすい。大修館と学研も大量飲酒による被害というのを取り上げており良い。各社とも熱中症についてもしっかり取り上げていただいている。総合的に見て大修館が1番。次いで学研。

原井教育長：「50大修館」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【大修館を採択】

【 技術 】

原井教育長：技術については、2東京書籍、6教育図書、9開隆堂の3社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花 山 課 長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。開隆堂は冒頭部分のガイダンスがしっかりしている。学ぶ上で気を付けることなどが分かりやすい。情報モラルについても具体例が分かりやすい。動画のナレーションが生成AIによるものなの少し聞きづらい。教育図書は文字が大きめで情報量もコンパクトで良い。情報モラルについても具体例が分かりやすい。東書はQRコードからの動画サンプルが多く分かりやすい。イラストの絵の色が若干薄く、文字が小さい。情報量や質、レイアウトやイラスト、写真の使い方など、総合的に見ると開隆堂が最も充実している。

中 川 委 員：写真や図形、説明など開隆堂が1番分かりやすかった。小学校や他者とのつながり、情報モラルにも触れてあり、まとめ具合が非常に良かった。他社は少し字が小さく思えるところがあった。情報量が多いが子どもたちには少し見づらいところもあったと思う。開隆堂が1番。

吉 尾 委 員：東書の方がSDGsと技術の関係性についてうまく書いている。問題解決が目標になっているというのも良いと思った。開隆堂は情報機器の注意点が非常に良い。進歩していく技術について注意することを伝えていくことは非常に重要だと思う。木材は日本の財産であるがこれについてもしっかりと捉えており分かりやすい。学習の内容が整理されている。特に災害の部分が分かりやすい。分かりやすいというのが1番良い。この点から開隆堂が1番。

飯 島 委 員：各社とも学習目標を示し、章末に学習のまとめが設けられているというように、子どもたちが学習するにあたっての配慮がなされているという点で

評価できる。情報セキュリティや情報モラルといった近年登場した新しいトピックについても3社とも取り組んでおり、甲乙付け難い。Webページについて、子どもたちは日常的に見ていると思うが、どうしてそれが表示されているのかを知らない子も多くいる。それを技術で学べると思うので、そのことについて分かりやすい記述があると良い。プログラミングの方法の説明があるという点で開隆堂が良いのではないかな。次いで東書。

原井教育長：「9開隆堂」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【開隆堂を採択】

【 家庭 】

原井教育長：家庭については、2東京書籍、6教育図書、9開隆堂の3社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花山課長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。開隆堂は登場人物の人種や役割、多様な家庭などダイバーシティに配慮している。性的役割分業についての記述やヤングケアラーについても触れている。持続可能な食生活や、防災について丁寧な記述がある。教育図書は他の二社に比べて全体的に情報の内容や量があっさりしている。東書はいろいろな家庭のあり方についてQRコードのリンク先に詳細なことが載っている。持続可能な食生活について丁寧な記述がある。全体的にデジタルコンテンツが充実している。情報の幅広さや内容の充実さは開隆堂が1番。東書も良いがQRコードのリンク先だけでなく開いてすぐに見られる教科書自体にもう少しコンテンツがあっても良かった。1番が開隆堂。次いで東書。

吉尾委員：家庭科は食事が大事だと思う。調理の流れが開隆堂は横に流れていて教育図書は縦に流れていた。個人的には縦に流れていく方が見やすいと思った。内容的には問題ない。東書は洋服の裁断図が載っていて、こんな風に作られていくのだというのを知っていくのも大事だ。家の見取り図も見やすく住まいを考えるには良いと思った。教図は子ども食堂や年中行事を大切にされているところが良い。高齢者との関わり方も丁寧に書かれていた。幼児の発達との関係性も重視されていて本当によく捉えておられる。また、「お弁当を作ろう」というのが非常に良い。家庭科の学びを自分のことと捉えられるのではないかな。是非子どもたちにお弁当を自分で作るということにも興味を持ってもらいたい。服装についてはTPOについてもしっかり学んでももらいたい。その点でも開隆堂はポイントを押さえている。1番が開隆堂。次いで教書。

中川委員：開隆堂はイラストと写真がきれいで他教科とのつながりも分かりやすかった。調理は私としては横に流れるほうが分かりやすいと思った。大事なところや注意点も順に書いてあり分かりやすかった。東書は「私たちの成長

と家族」のところで子どものことを重点的に取り上げていて良かった。全体的に見て1番が開隆堂。次いで東書

飯島委員：印象として教書は写真、イラスト共に見やすい。東書はたくさんの情報を載せていて良いが若干見やすさが犠牲になっていると感じた。開隆堂は子どもたちにとって重要な観点が抜き出されて載っているのが良い。特に18歳成人の時代になったこともあり、18歳になると契約を結ぶことが出来る。消費者と権利と義務について見開き2ページで記述しているところが良い。中学生であれば携帯ゲームに課金してしまい、保護者に高額請求が来るという話も聞く。中学生は守られる立場だが18歳になれば独立して契約を結ぶことが出来るので、何が消費者にとっての義務なのかを意識することが必要である。この部分を生徒に印象付けることが出来る点や現行教科書であることも考慮して、開隆堂が1番。次いで東書。

原井教育長：「9開隆堂」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【開隆堂を採択】

【 道徳 】

原井教育長：道徳については、2東京書籍、17教育出版、38光村図書、116日本文教出版、224学研、232あかつき教育図書、233日本教科書の7社である。各委員からのご意見を賜りたい。

花山課長：レイノルズ委員の意見を読み上げる。各社QRコードが多く準備されており、端末を活用できるような工夫がみられる。日文は別冊のノートがあるが、今後は端末を用いることで代用できるようになっていくのではと考えられる。現代的諸課題の中でも、いじめ問題を特に多く取り扱っているところは評価できる。問題解決的な学習や体験的な学習を多く取り入れられており、生徒の学びを深める教材が多いと考えられる。東書は教材の中に考えを書きこむことができる「つぶやき」欄があることは魅力的である。光村が良い。次いで東書。

吉尾委員：すべて慎重に読ませていただいた。特に東書の避難行動判定フローは中学生に知ってもらいたい内容だと思った。付録に心情円があり、自分の状態をグラフで表すというのは面白い。受験で心揺れる3年生にとってこの文章に触れることは非常に意義があると感じる。教出は前文が非常に良い。身近な内容を話して考えさせる提案がある。光村は表紙で1人の子どもに焦点を当てている。この子の心情等、子どもたちが考えさせられるところがあるのではと感じた。また、差別の現実や感情マネジメントを学ぶことは大事である。道徳を哲学として捉えられているようで全体的な流れが良かった。日文はオーソドックスな朗読という印象をもった。学研は写真やイラストが非常にきれい。少しサイズが大きく取扱いづらいと感じた。あかつきはオリジナルなものが少ないと感じたが、山中伸弥さんの具体的な体験、内容が身近で

非常に良い。哲学的なことを分かりやすく知らせたいという想いが伝わってくる。道徳という内容を考えると光村。次いで東書。

飯 島 委 員：以前より差が小さく選ぶのが難しい。学校の先生方の意見も分かれているように見受けられる。光村はSDGsやいじめ、情報モラル、人権教育などの教材が充実していると感じた。このバランスが良いのが東書も同様。プラスとして学びを深める工夫がなされていると感じる。日文も多様な教材を取り上げている。「自分にプラスワン」という項目で子どもたちの考えを深めることもできる。中でも、教材ごとに見方を変えてつなげようという問題提起がある点では光村が良い。情報モラルの取扱いも含めて光村が1番。次いで、東書か日文だが、現行の教科書である点で日文。

中 川 委 員：各社いじめや情報モラル等の新しいことにも取り組んでいただいている。光村は情報モラルや多様性など取り上げているし色も見やすく良い。日文は子どもに寄り添った多様性やいじめについて取り組んでいただいている。またメッセージがゆったりしていた。QRコードから今日の気持ちを取り上げていて工夫が見られた。1番が光村。そして次が日文。そして3番目に編集がしっかりしていた東書。

吉 尾 委 員：光村について追加で1つ。道徳を始めようというページは非常に良い。子どもたちが主体的にこの教科書に関わるには、それぞれの感じ方考え方は教科書に書きすぎないのが良いのかなと思った。

原井教育長：「38光村図書」を採択することで意義ないか。

（異議なし）

審議結果 【光村図書を採択】

【 特別支援学級使用教科書 】

・特別支援学級使用教科書の採択について花山教育指導課長から説明

原井教育長：特別支援についても、普通学級にて使用する教科書を使用するのが望ましいという説明であった。説明にあったとおり、特別支援についても生徒が在籍する当該学年で採択された教科書を使用することに異議ないか。

（異議なし）

審議結果 【当該学年で採択された教科書を採択】

○閉会宣告

午後12時23分 閉会